

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立本庄中学校）

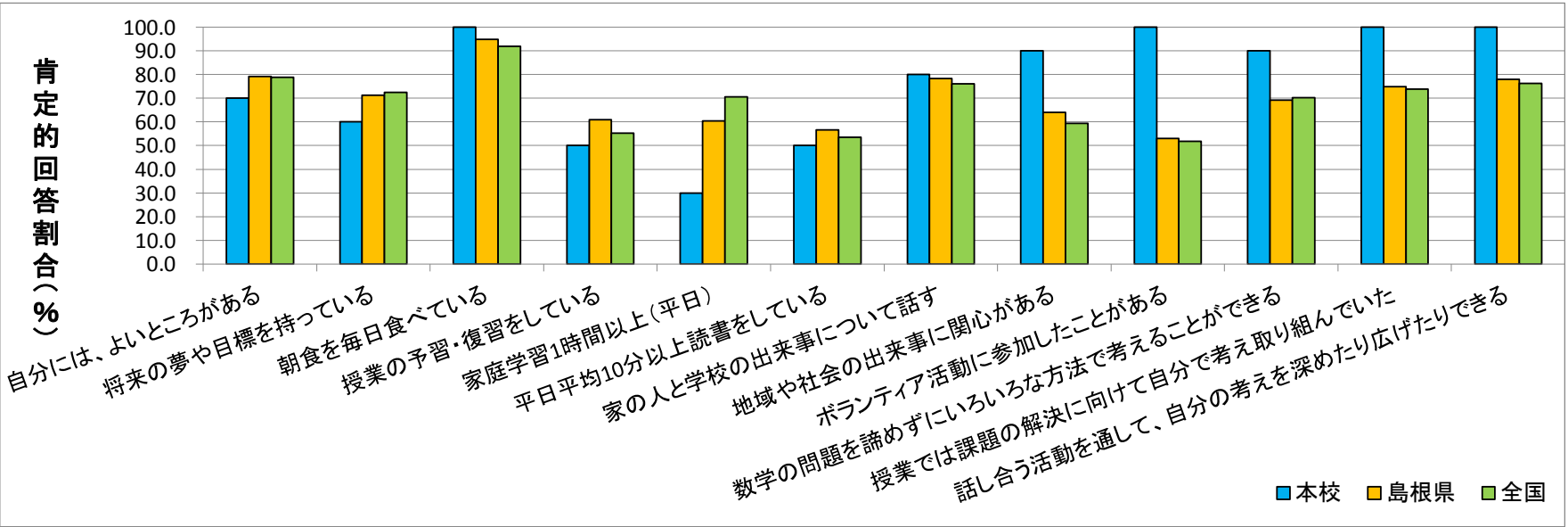
平成30年9月25日

(1) 学力調査結果から見られた傾向

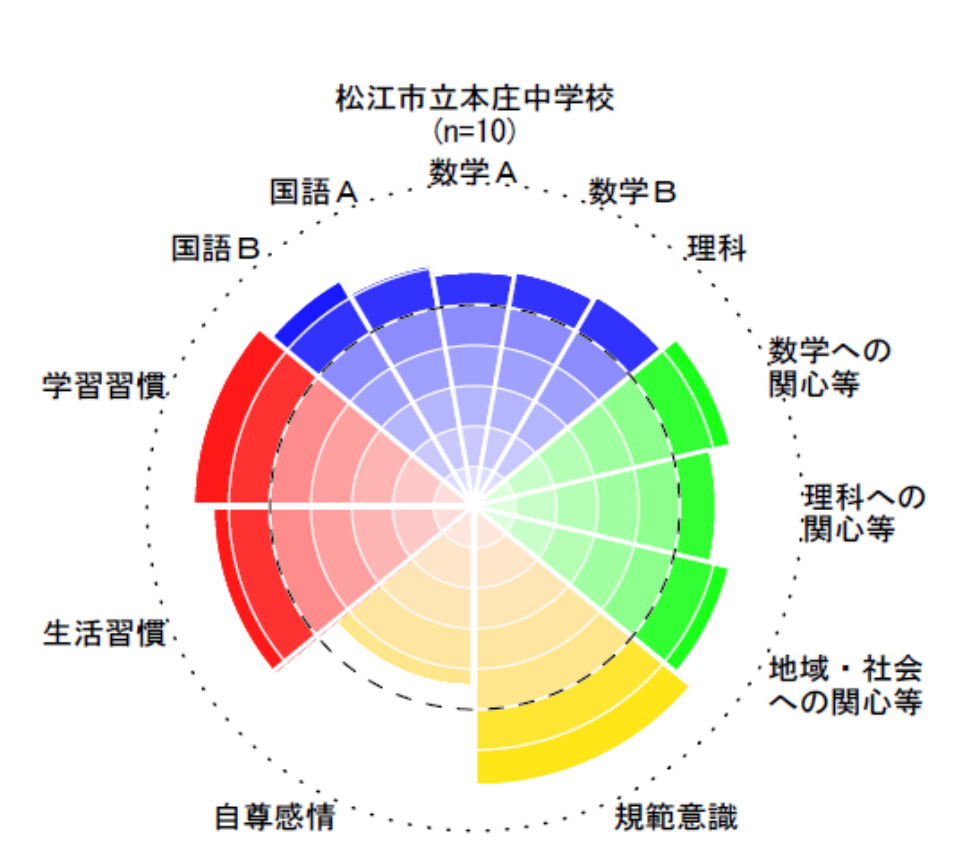
		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
国語	A (基礎)	○A基礎、B活用の両方で、4領域すべてで全国平均正答率を上回った。入学以来、時事問題や学校行事など、身の回りの出来事を学習の題材に取り入れてきた成果だと考えている。とくに、書く技能を育てる短時間の課題学習を繰り返してきたことで、自分の考えをふまえて解答する問いや、条件に即して記述する問いについて、記述する力をつけていると考えている。	日常生活の中で使いこなせる語彙をふやせるよう、学習方法に一層の創意工夫をこらす。とくに、社会問題や、時事関連ニュースなどに即応した語彙学習を心がけ、獲得した語彙を通して、自分の考えを的確に表現できたり、新しい概念や知識を説明できたりする体験を積み重ねることに注力する。
	B (活用)	●「天地無用」や「堰を切る」など、日常触れることの少ない語彙について、正しい知識や、語句の活用の技能がやや低い傾向にある。学習場面や日常生活の中で、難解語句に触れる場面があっても、言葉の知識を増やす機会として捉えられていないためだと考えられる。また、授業者も平易な語句のみを用いて指導する傾向にあるのも一因と考えられる。	それにより、語彙を豊かにすることが自分の考えを広く豊かにすることを感得した学習者が、進んで新しい語彙を身につけようとする意欲と意識を持つことが期待できる。
数学	A (基礎)	○4領域において、全て全国の平均正答率を上回った。また、評価の観点や問題形式においても、全て全国の平均正答率を上回った。●4(2)、(3)の図形の移動、6(2)の五角形の内角の和、そして、9(3)の反比例のグラフの正答率は10%以上全国の平均正答率を下回っている。	授業に対する取り組みは、とても意欲的である。また、提出物の提出はとてもよく、これも学校全体で提出物や学習習慣を身につける取り組みの賜物と考える。これまでの、取り組みを継続した上で、左記の●の内容、特に平面図形と反比例の学習の復習をする必要がある。
	B (活用)	○4領域において、全て全国の平均正答率を上回った。また、評価の観点や問題形式においても、全て全国の平均正答率を上回った。●1(2)、2(2)3(3)、4(3)の記述式の問題が4%から13%ほど、全国の平均正答率を下回っている。	記述問題でわからないときは、曖昧な解答としてしまう傾向があるものと考ええる。1学期に記述を「読み合う指導」を行ったところ、わからないことがわかるようになって、よりわからないところがわかるようになった生徒は多い。問題把握のために、記述を「読み合う指導」を行い、「わかる」という自尊感情を高める。その上で、記述を生徒自らよりよくさせるために「表現を洗練させる他の指導」行う。
理科		○ガスバーナーや電流計といった、基本的な器具の使用法について理解度が非常に高かった。また、オームの法則を示す表の読み取りや、同法則を利用した計算問題や質量パーセント濃度の計算の正答率も高かった。●テレプロンプターのモデルから光の道筋を考えたり、初期微動継続時間と震源距離との関係と音の速さに関する知識を活用する等の初めて接するタイプの問題や知識を活用する問題での正答率が低かった。	実験観察に中心においた授業により、基礎的な実験操作の技術や知識は理解できているが、その知識を身の回りの機械のメカニズムと関連付けたりする授業を今後行っていく必要がある。また、よくあるタイプの計算問題にとどまらず、全国の高校入試問題等にも幅広く接する機会を設け、柔軟に解答していく力をつけていく必要性も感じた。

(2) 生活意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○：成果，●：課題)	対 策
		○全国平均を上回ったのは、規範意識・人権意識・地域への所属感等であった。小さな集団で同調意識が強く、やるべきこときちんとしてしようとする。また総合的な学習などを通して、地域との関わりを強く感じている。 ●全国平均を下回ったものは、自尊感情、将来への夢などの項目である。小集団で一人一人が大切にされているが、自分で何事かを成し遂げたり、自ら外の世界へ関心を向けて主体的に動いたりすることが少なく、自分に自信がない。	・一人一人が学習や生徒会・学校行事の中で役割を果たしたり、意見を発表したりして、集団に貢献する場面を設定し、自尊感情へつなげる。 ・メディア使用の時間に比べ、読書や新聞を読むことや学校以外の場での経験が少ないので、様々な情報にふれさせ、いろいろな機会をとらえて視野を広めさせる。



(4) 学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



(5) その他、今後特に力を入れて取り組むこと

小規模校という学校の特徴を活かし、異学年間の協同授業や、小人数集団による話し合いによる問題解決型の授業に力を入れて行きたい。

【参考】

○平均正答率		(%)			
国語	A	82	76	76	76.1
	B	71	61	61	61.2
数学	A	72	65	64	66.1
	B	54	46	45	46.9
理科		73	65	66	66.1

受検者数 10人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。